

〈令和4度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	Rankup
事業名	貧困世帯に向けた子ども支援事業
補助金額	500,000円

事業の目的

事業目的は未来ある子どもたちの笑顔を増やすことです。特に子どものいる貧困世帯への支援を行います。貧困世帯への支援団体に食料や日用品などの物資を寄付することでその世帯の生活支援を行います。

事業の内容と成果・効果

〈事業の経過と内容〉



【1 絆食堂】毎月第1・第3土曜日に子ども無料の食事提供を実施しました。子ども支援だけでなく、子どもや高齢者等の孤食の解決にも繋がりました。子どもだけでなく、老若男女問わず、誰もが訪れられる、そんな地域の拠り所の役割を果たせました。

【2 絆市】自団体が栽培した野菜を販売しました。売上金の一部で物資を購入し、貧困世帯を支援している団体等に提供しました。

【3 絆BOX】絆BOXという寄付箱を設置し地域の方から物資を寄付していただきました。集まった物資に関しては貧困世帯を支援している団体等に物資を提供しました。



【SNSでの周知活動】毎回絆食堂や絆市を実施する前にSNSで宣伝し、周知活動に取り組みました。実際、SNSを見て、来られた方や絆食堂のお手伝いをしたいという方もいらっしゃいました。ここ最近では、私たちの投稿を見て、子どもを支援する活動をしたい方や不登校のお子さんがいる親御さんからの連絡をもらうなど、一定の効果があったと感じます。

〈成果・効果〉

成果に関して、絆食堂16回、延べ来客数241名、絆市13回、寄付回数4回を実施することができました。8ヶ月間それぞれの取り組みを継続的に実施し、SNSでの活動報告を行ってきました。その結果、認知度の上昇、ボランティアの方を含め支援して下さる方が増加しました。その先の効果として、特に絆食堂の活動が大きく感じられました。当初は、子ども支援をメインで考えていました。ただ、実際活動すると、子どもだけでなく、老若男女問わず、地域の方が来てくれました。特に小さいお子さんがいる方からは「地域に子どもと一緒に来られて、落ち着けるところは少ないから、本当に有難いです」など、こちらの励みになる言葉をいただいています。



事業を実施しての課題

① 絆食堂への来客数

地下と地域の特性もありますが、他の子ども食堂と比べ、来られる人数が少ないことが課題です。団体を継続的に運営する面、もっと生活に困っている方や子どもたちに来てもらいたい思いがあるので、この課題を解決しなければなりません。

②団体を継続的に運営する基盤

年々、団体収入が増えていますが、まだ補助金あつての運営なのが課題です。

自団体の収入源は野菜販売、絆食堂になりますので、これらの収入源をいかに強化するかが課題となります。